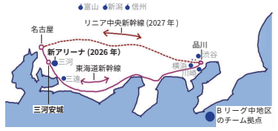
ウェルビーイング・ステーション・三河安城

明治用水緑道を活かした安城ならではの「健康づくり」の拠点

課題認識 -1　リニア開通や多目的交流拠点を活かした交流機会をまちに波及させるデザイン

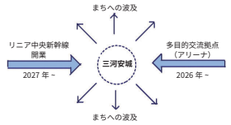
分析

- 2026 年多目的交流拠点（アリーナ）が完成。日本各地から B リーグチームとサポーター（ブースター）の来訪が見込まれる。
- アリーナを活用した集客イベント等による来訪者も見込まれる。
- 2027 年リニア中央新幹線が開通予定。「のぞみ」が減り、「こだま」が増加すると言われており、三河安城駅の利便性が向上する。
- 新幹線「こだま」を利用した出張や遠征の機会増加が見込まれる。



課題

- 駅前や駅周辺の一部だけが来街者で賑わっていても、多くの市民にとってはほとんど価値がない。
- 交流人口の増加が、まちに好影響を与え、"まちなか"まで効果が波及するような道筋を示したエリアヴィジョンが必要である。
- 来街者の滞在時間を増やしたり、また安城に来たくなる仕組みや仕掛けとセットで考えることにより、来街者としても"まちなか"で過ごすことが暮らしの一部になるような未来が求められる。
- 三河安城駅周辺だけでなく、既にあるまちの資源を最大限活かした"まち全体"の在るべき姿を構想し、ヴィジョンを描くべきである。



課題認識 -2　安城の地形・歴史による空間的資源「明治用水緑道」を活かしたまちの再編集

分析

- 安城は土地の起伏がほとんどないフラットな台地の上にある。水不足に悩まされ続け、農作がしづらく、大変な苦労をしながら生活していたと言われている。
- 転機になったのは 1880 年の明治用水の開通である。明治用水は現在、日本 3 大農業用水の一つとも呼ばれており、農業用水、工業用水として利用され、安城の急速な近代化と発展を支えた。
- 明治用水は現役で今も活躍し、用水路沿いや暗渠化された水路の地上部は自然豊かな緑道・自転車道として整備されている。
- 明治用水緑道と自転車道のネットワークは、安城の地形・歴史と紐づいた最大の空間的資源と言える。

課題

- 車社会でもある現代では緑道は日常生活から切り離されており、豊かな環境のネットワークが十分には活されていない。
- 三河安城駅の地面の下には 100 年以上前から明治用水が流れているにも関わらず、まさにその場所を明治用水が流れていることを来街者が知覚できるような空間とは言い難い。
- 未来の駅周辺の在るべき姿を構想するにあたっては、いかにして安城市最大の空間的資源である明治用水緑道・自転車道のネットワークと駅周辺を一体的に考えられるかが鍵になる。
- 三河安城駅周辺という「点」だけでなく、明治用水緑道という「線」そして安城市中心部エリアという「面」に徐々に波及することを意識した計画が求められる。

■明治用水緑道（中井筋）の豊かな環境 - 生態系を育む豊かな自然 -

エリアヴィジョンの提案　安城のまちだからこそ実現できる「健康づくり」のかたち

分析

- 安城市では「市民一人ひとりが生活の豊かさとともに幸せを実感できるまち」の形成がまちづくりの基本理念として位置付けられ、特に「健康」を軸に据えた「健幸」のまちづくりを推進している。（第 8 次安城市総合計画）
- 「健幸」とは市民一人ひとりが身体的・精神的に健康であることに加えて、趣味や社会貢献などの様々な活動を通じ、日々の生活に「生きがい」や「感動」を見出し、生きていることの喜びを実感することを意味している。
- そして高齢化社会と長寿命化が進む「人生 100 年時代」では、健康寿命を伸ばし、日常的な暮らしを長く続けることは全ての人にとって共通の課題となっている。コロナ禍の生活を経て健康への意識は以前より高まっており、いまや出張先でのランニング（出張ラン、旅ラン）も珍しくなくなり、ランニングの日常を SNS 等で発信する人も増えている。

提案

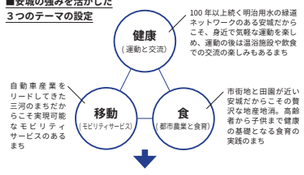
- 三河安城駅周りの市街地を抜けると、美しい緑道の空間が現れる。市民にとって日常で当たり前の光景でも、来街者にとっては当たり前ではない、安城だからこその体験がある。
- 地域住民も、駅周辺で働くオフィスワーカーも、ホテルを利用する来街者も、みんながまちを使い続けたくなる仕組みとして、明治用水緑道を活かした『安城のまちだからこそ実現できる「健康づくり」のかたち』を提案する。
- みんながまちを使い続けたくなる仕組みの実現に向けて、安城市内の産業・企業の強みを活かした<ruby>健康<rt>けんこう</rt></ruby>・移動・食を重点テーマとして設定し、これら 3 つのテーマが協創するための 2 つのプロジェクト（= デザインコンセプト）を提案する。

■エリアヴィジョンの提案

安城のまちだからこそ実現できる「健康づくり」のかたち

↓

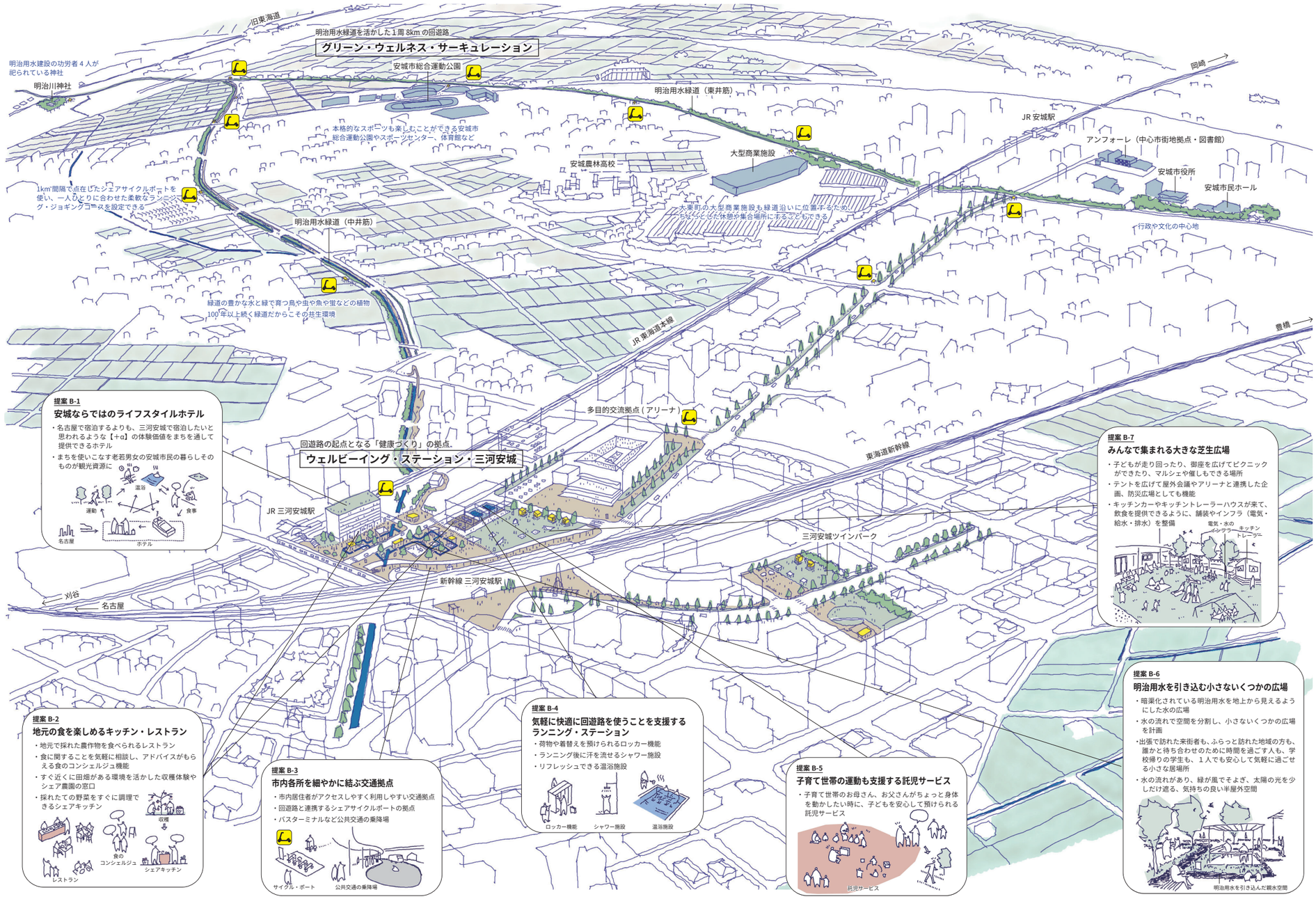
■安城の強みを活かした 3 つのテーマの設定



↓

■3 つのテーマが協創するための 2 つのプロジェクトの提案

提案 A		提案 B
グリーン・ウェルネス・サーキュレーション	+	ウェルビーイング・ステーション・三河安城



提案 B-1
安城ならではのライフスタイルホテル

- 名古屋で宿泊するよりも、三河安城で宿泊したいと思われるような【+α】の体験価値をまちを通して提供できるホテル
- まちを使いこなす老若男女の安城市民の暮らしそのものが観光資源に

提案 B-2
地元の食を楽しめるキッチン・レストラン

- 地元で採れた農作物を食べられるレストラン
- 食に関することを気軽に相談し、アドバイスがもらえる食のコンシェルジュ機能
- すぐ近くに田畑がある環境を活かした収穫体験やシェア農園の窓口
- 採れたての野菜をすぐに調理できるシェアキッチン

提案 B-3
市内各所を細やかに結ぶ交通拠点

- 市内居住者がアクセスしやすく利用しやすい交通拠点
- 回遊路と連携するシェアサイクルポートの拠点
- バスターミナルなど公共交通の乗降場

提案 B-4
気軽に快適に回遊路を使うことを支援するランニング・ステーション

- 荷物や着替えを預けられるロッカー機能
- ランニング後に汗を流せるシャワー施設
- リフレッシュできる温浴施設

提案 B-5
子育て世帯の運動も支援する託児サービス

- 子育て世帯のお母さん、お父さんがちょっと身体を動かしたい時に、子どもを安心して預けられる託児サービス

提案 B-6
明治用水を引き込む小さないくつかの広場

- 暗渠化されている明治用水を地上から見えるようにした水の広場
- 水の流れで空間を分割し、小さないくつかの広場を計画
- 出張で訪れた来街者も、ふらっと訪れた地域の方も、誰かと待ち合わせのために時間を過ごす人も、学校帰りの学生も、1 人でも安心して気軽に過ごせる小さな居場所
- 水の流れがあり、緑が風でそよぎ、太陽の光を少しだけ遮る、気持ちの良い半屋外空間

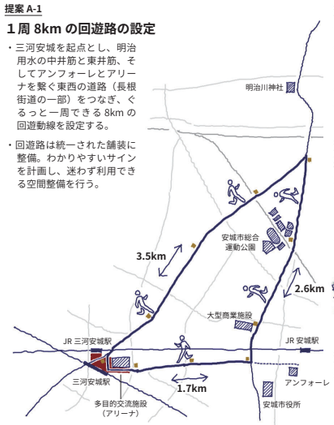
提案 B-7
みんなで集まれる大きな芝生広場

- 子どもが走り回ったり、御座を広げてピクニックができたり、マルシェや催しもできる場所
- テントを広げて屋外会議やアリーナと連携した企画、防災広場としても機能
- キッチンカーやキッチントレーラーハウスが来て、飲食を提供できるように、舗装やインフラ（電気・給水・排水）を整備

提案 A　「グリーン・ウェルネス・サーキュレーション」 - 明治用水緑道を活かした 1 周 8km の回遊路 -

提案 A-1
1 周 8km の回遊路の設定

- 三河安城を起点とし、明治用水の中井筋と東井筋、そしてアンフォーレとアリーナを繋ぐ東西の道路（長根街道の一部）をつなぎ、ぐるっと一周できる 8km の回遊動線を設定する。
- 回遊路は統一された舗装に整備。わかりやすいサインを計画し、迷わず利用できる空間整備を行う。

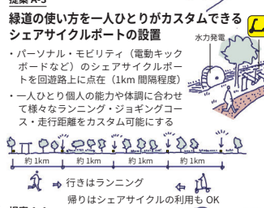


提案 A-2
ランニング・ジョギングコースに合わせた路面整備

- 自転車や新しいモビリティ・サービスなど移動速度に合わせた安全性の確保
- 休憩できるベンチの設置
- 安全で安心して利用できる公衆トイレの設置

提案 A-3
緑道の使い方を一人ひとりがカスタムできるシェアサイクルポートの設置

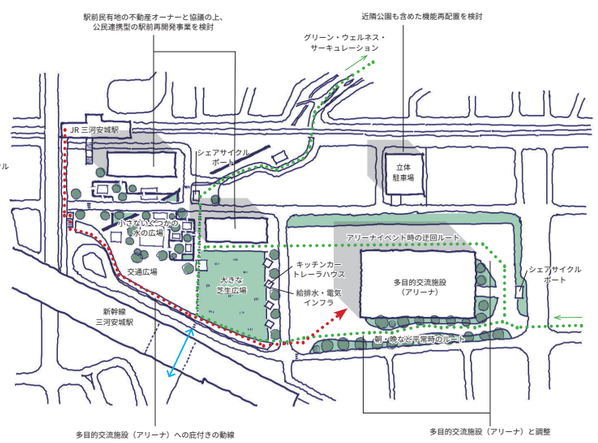
- パーソナル・モビリティ（電動キックボードなど）のシェアサイクルポートを回遊路上に点在（1km 間隔程度）
- 一人ひとり個人の能力や体調に合わせて様々なランニング・ジョギングコース・走行距離をカスタム可能にする



提案 A-4
活動をサポートする組織

- 継続した運動を互いに支援するコミュニティの形成
- 個人の身体機能に合わせた運動相談ができる運動アドバイザーの設置

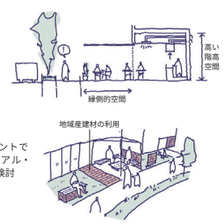
提案 B　「ウェルビーイング・ステーション・三河安城」 - 回遊路の起点となる「健康づくり」の拠点 -



駅南地区の提案　活動が見えやすいまちのデザイン

提案 C-1
グランドレベルの景観デザインガイドラインづくり

- 1 階階高を高くする制限を設け、飲食系のテナント等が入りやすいように誘導
- 縁側的空間の創出を促し、人が見える街並みに誘導
- 地域産のレンガを舗装やサイン、外壁の一部にポイントで使うなど、マテリアル・デザインコードも検討



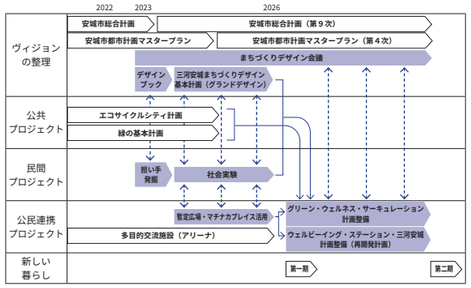
提案 C-2
小商いを支援するデザイン屋台の貸出

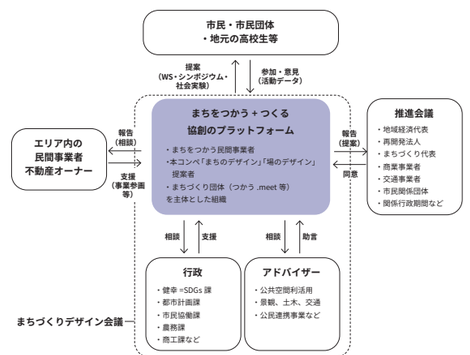
- マルシェやイベントで小商いを始めたい人を支援するため、デザインされた個性豊かな移動式屋台を貸出
- 空いている駐車場スペースを移動式屋台を保管するスペースとして有効利用する

チャレンジ小商いのためのデザイン屋台

プロセスの提案　公民の取り組みが連携した実施プロセス

- 本デザインコンペを契機とした「まちをつかう + つくる協創のプラットフォーム」を立ち上げる。
- 本提案とデザインブックをたたき台として、明治用水緑道を含めた三河安城地区の在るべき姿（エリアヴィジョン）について意見交換するコミュニケーションの機会を設定し、ヴィジョンを共有する。
- 協創のプラットフォームと関係行政機関や専門アドバイザーで構成された「まちづくりデザイン会議」を発足させ、「三河安城まちづくりデザイン基本計画（グランドデザイン）」を検討、策定する。
- 同時に、社会実験を通して、将来のヴィジョンを先取りして体験できる日・期間を作り、課題の発見や運営の担い手の発掘、チーム作りを行う。
- 公民が連携して三河安城周辺と明治用水緑道を整備し、「ウェルビーイング・ステーション・三河安城」と「グリーン・ウェルネス・サーキュレーション」を実現する。



組織体制の提案　まちをつかう + つくる協創のプラットフォーム

- まちを使う民間事業者や本コンペ「まちのデザイン」「場のデザイン」提案者、まちづくり団体（つかう .meet 等）を主体とした協創のプラットフォームを組織する。
- 協創のプラットフォーム、関係行政、専門アドバイザーで構成する「まちづくりデザイン会議」を発足し、全体を俯瞰した位置から、グランドデザインの立案・作成や事業間の調整を行う。
- 協創のプラットフォームを中心として、行政やアドバイザーと連携し、エリア内の民間事業者や不動産オーナー、市民・市民団体・地元の高校生等、推進会議と意見調整や合意形成を行う。